

デジタルデバイトと情報難民問題を考える

拙著「会計リテラシーで見えないお金が見えてくる」 P249～256 より引用

●前期高齢者の中でのデジタル機器普及率

以前に私が税理士の友人から、その方の事務所の創業 50 周年の記念品をもらった時の話から始めましょう。

贈られたのは USB メモリでした。同じく贈られた仲間の一人が、「これ何に使うの？」と質問してきました。年齢は私よりちょっと若いくらいですが、日本の最高学府を卒業し、超難関な資格を保有している方です。USB メモリを知らないことの驚きもさりながら、彼が次に発したのは「アッ、フロッピーディスクのようなもの？」という言葉でした。

今やフロッピーディスクも生産終了してしまいましたから、絶滅の化石種シーラカンス状態になっています。彼は文章を書くのが仕事ながら、清書は全て秘書任せのため、ワープロやメールも使えていないようです。

そこで自分のことに目を転じ、身の周りにある IT 機器等の利用状況を考えてみることにします。

私たちより少し若年代（65 歳からの前期高齢者に成りきった年代で、かつ 70 歳未満）でも、携帯電話未利用者はさすがに少なくなっています。しかしメールを使っている人の割合はどうでしょう？ 小学校のクラス会で作っているメールリンク（またはメーリングリスト）の利用者は全体の 4 分の 1 つまり 25%、高校のクラス会のそれは約 40%。私どもの年代は、ちょうど管理職になって現場を離れた頃から IT 化が進展し、パソコンとの縁がないまま定年を迎えてしまった方も多く、そのまま現在に至っている人も多いのです。ただし、大学のクラス会での利用率は所在判明者の約 90% あります。意外と多いものだと感じました。

一方、驚くべきデータもあります。私が役員を務めるある財団で、80 歳代の評議員に彼の大学時代の仲間のメール利用率を聞いたところ、20% でした。仕事を辞めてから 20 年以上経っている方たちのメール利用率が 20% もあるというのは、すごいと感じませんか？

この方の大学時代の友人は、おそらく 70 歳くらいまでは各企業や業界で役職を張っていたような、日本のトップレベルの階層の人たちばかりです。ですから、時代に取り残されないよう、自ら向上心と探究心と好奇心を持ってパソコン利用のスキルを獲得していったに違いありません。

●デジタルデバイドって何？

デジタルデバイドとは、情報技術（IT）を使いこなせる者と使いこなせない者との間に生じる機会の格差、個人間の格差のことです。情報技術（IT）を使いこなせない人は、

ものすごく遅れてしまっていることに気付かないまま取り残されているんじゃないでしょうか。学歴の差が生涯獲得所得の差になっていることの問題点も指摘されていますが、デジタルデバイドが生み出す待遇や貧富、機会の格差こそ、今後問題になるかもしれません。

I T機器利用者の格差は私の年代の前後を境目にして生じています。まあ私どもはすでに世の中に対する貢献も役割もその使命を終えてしまっていますので、これを使えないからと言っても、更なる格差も生じようのない年代です。

しかし、私どものクライアントの中でも、若いのに「私はアナログ人間だから、ダメなんです」と公言している人がいます。これからの世の中に貢献すべき若人なのでから、デジタルデバイドによる待遇やチャンスに格差が生じないように、奮起を望みたいものです。

インフォメーションホームレス（情報難民）状態になって時代から取り残され、消滅していった中小企業が沢山あります。中小企業経営者には、変化に対応する姿勢、そしてそのための努力をしてほしいのです。すっかり古い言葉になりましたが、ネチズン（情報市民）になりましょう。（今風に言うならソーシャル人でしょうか？ しかし 15 年でこれほどの劇的変化が生じてこようとは思いませんでした）

今のようなクラウドの時代には、冒頭に触れた私の同業者が創業 50 周年に配布した USB メモリとて不要の時代となっています。あと数年で USB メモリや CD-ROM そしてハードディスクですら姿を消しているかもしれません。容量無制限の無料オンラインストレージもたくさん出現し、全くありがたく利用させてもらっています。

21 世紀を生き抜くビジネスマンに欠かせない 3 つのリテラシーは「パソコン」「英語」「会計」であると、週刊『東洋経済』のかなり前の記事にありました。私の育った時代は「読み」「書き」「そろばん」が必須科目でした。

今は、パソコンに替わり「スマートフォン」を使いこなさないと時代遅れとなりつつあります。つまりクラウドを自由自在に使いこなせるかどうかでしょう。

「人間性の第四革命」といわれるクラウド革命について私のブログで書いたのが 2010 年 1 月ですから、すでに 10 年経過しています。iPhone を中心とするスマートフォンの出現がその後の人間の生活様式を変えてしまったのです。スティーブ・ジョブズが人間の生活様式を変えてしまったといっても過言ではありません。

●クラウド社会のもたらすもの

イギリスのハートフォードシャー大学哲学科教授のルチアーノ・フロリディという学者が、上述した「人間性の第四革命」というテーマで面白いことを言っています。「人間はコンピュータを必要としているが、コンピュータは人間を必要としていない。それどころか、人間は本来、コンピュータの輪の中にいるべきではない。この輪の中から潔く出て行こうとする人間の初めての試みが、クラウドコンピューティングだ」というのが彼の言う趣旨です。

「人間性の第四革命」＝第四の波にあつては、情報はサーバーの固まりの「クラウド」で共有され、人間の知的活動は「創造」活動のみに特化されていきます。つまり知識や情報の多寡は何の価値もなく、創造活動だけが人間の知的活動に特化され、企業も個人も生産性の飛躍の向上は当たり前で、新たな競争社会が到来するとしています。

フロリディはこれを12年前に言っているのですが、当時の私はまだクラウドの社会のありがたさをそれほど認識しないまま、Gmail、Google グループ、Google ドキュメント、旧 SKYDRIVE（今は OneDrive）等を使っていました。それが、フロリディの「人間性の第四革命」関連書籍に接して考え方が変わり、さらに昨今の iPhone やアンドロイド系のスマートフォンの機能を見るたびに、スティーブ・ジョブスは人間の生活様式を変えてしまったなと痛感するのです。

飛脚時代とメール時代のスピードの違いは理解できても、コンピュータとスマートフォンの違いが理解できてない方は、人間性の第四革命の話をしてピンと来ないかもしれません。飛行機に乗って福岡に行かなくても、新幹線でも行けるわけですから、とにかく行ければいいという人たちは、移動時間の差から得られるメリットに無頓着なわけです。同様に、IT やクラウド等の知識が貧弱で、かつ使いこなせなくとも、生活に支障は全くありません。

しかしそれらの知識に長けている人種は、何ら価値のないところの「知識や情報」は数秒から数分のうちに入手してしまい、数分後にはもう分析・評価活動そして創造活動に入っていきます。知識を得るための「音声検索」や、知識や情報を溜め込むためのツールである「EVERNOTE」をスマホで使いこなしている人は、そうでない人に比べたら数十倍の時間の節約を可能にしています。

一方、「私はアナログ人間だからだめなんだ」と言っている人は、情報や知識を入手する段階で、クラウドを含めた IT 技術に長けた人に比較したら数十倍の時間と労力を要しているはずです。この時間の差を、私は広い意味で「機会損失」ととらえたいのです。

つまりデジタルデバイドがもたらす機会格差です。いまやクラウドの世界を「知る⇔知らない」は飛脚便とメール便ほどの差がついているのかも知れないのです。ちょっと表現がオーバーになりすぎましたので、宅急便とメール便ぐらいの差にしておきます。

50 周年記念にいただいた USB メモリーから、話が飛躍して行ってしまいましたが、これからの世代を担う若い世代は、コンピュータの輪の中にいるべきではなく、この輪の中から潔く出て行ってほしいのです。そしてインフォメーションホームレスにはならないで下さい。